

真校魅力だより その17

真室川校の伝統と誇りをつなぐ ～音頭パレードに参加～

真室川校の生徒会スローガン「地域を愛し、地域に生きる」は生徒たちの発案から始まっています。このスローガンを具現化するため「真室川音頭パレード」に毎年参加してきました。昨年、一昨年のパレードは中止となりましたが、生徒たちは、再開される時のためにと踊り講習会や班ごと練習、踊りコンテストなど、伝統を引き継ごうと地道に練習を続けてきました。

6月28日(火)の「真室川音頭踊り講習会」は、町連合婦人会の佐藤裕子会長、剣持順子副会長、柴田順子副会長を講師に迎え開催されました。1年生の中には、初めて指導を受ける生徒もいて、手拍子や指先、目線など細やかなところまで丁寧に指導していただきました。7月13日(水)～21日(木)は、1～3年生を縦割りに8つに分けた班が、清掃終了後に校内放送から流れる真室川音頭に合わせ、廊下を利用して「班ごと練習」を繰り返しました。7月22日(金)の「踊りコンテスト」では、班ごとに輪踊りを披露し順位を決定します。生徒たちは日ごろの練習の成果を発揮すべく真剣に取り組んでいました。

8月17日(水)の真室川音頭パレードは、3年ぶりの開催のため、生徒全員が初めての参加となりました。「地域を愛し、地域に生きる」の横断幕を掲げ、3年分の思いと「伝統と誇り」をつなぐべく、校長先生を始め教職員・生徒全員で踊りを披露しました。参加した土田珠李さん(2年)は、「みんなと元気にかけ声を掛けながら、楽しく踊ることができました。パレードを盛り上げることができて良かったと思います」と感想を述べてくれました。



踊り講習会



真室川音頭パレード

ようこそ先輩!! vol.8

真室川校の卒業生は、様々な職業に就いて多方面で幅広く活躍をしています。そんな先輩方の思いや後輩たちへのメッセージをお届けします。

～周りの人たちに支えられて「銃剣道競技 国体優勝」～



とし あき
新田 寿 昭さん
(平成4年度 卒業生)

農業(ミニトマト農家)

私が通った真高は、先生方が身近な存在で何事も親身に接し、卒業してからも遊びに行きやすいそんな学校です。高校3年の平成4年に「べにばな国体」銃剣道競技が真室川町を会場に開催されることから、高校では合宿や遠征など銃剣道漬けの3年間でした。お蔭で選手として出場した山形県チームは、団体優勝で国体3連覇(選手全員が真高生で2連覇)を成し遂げました。沢山の人たちから支えられてできた結果だと感謝しています。

高校卒業後は、真室川町役場に就職して様々な職場を経験しましたが、食にかかわる仕事がしたいとの思いが強まり、実家の農業を受け継ぐため、26年間勤務した役場を退職しました。すぐに新規就農補助金を活用して6棟のビニールハウスを建てミニトマトづくりを開始、1年目は大蔵村の農家に修業に行き、ミニトマトのすべてを丁寧に教えていただきました。今は、父の米作りを手伝いながらミニトマトを育て出荷しています。毎日がとても忙しいですが、美味しいものを届けるために頑張っています。

高校ではやりたいことを早く見つけること。困ったことや迷ったことがあったら周りにいる人の話を聞き参考にすると良いと思います。人間は周りの人から助けられ支えられて生きています。人との出会いやかかわりを大事にして、社会で頑張りたいです。